

「何事も、めんどくさがっちゃいけません。」

永年にわたり、市のごみの減量及び循環型社会の構築のための活動に尽力された平成9年10月より国立市商工会で始められたエコポイント(牛乳パック回収ポイント)事業における牛乳パックの回収店として、年間平均13万枚という回収を続けられた。

環境保全功労

みやざき もりお
宮崎 森夫氏

「くにたちエコポイント事業に(牛乳パックの回収店として)協力することを決めたくっかけは、何でしょうか。」

「商工会の方が見えて、私のお店(宮伝米店)がある旭通り周辺に牛乳パックの回収店がないから協力してくれないか、と依頼されたのがきっかけです。」

「特にお断りする理由もありませんので、素直にお引き受けいたしました。」

「回収枚数が年間平均約13万枚というのは驚愕の実績です。この実績についてどうお思いですか。」

「通りに面した場所にお店がありましたので、たまたまお客様が入りやすかったのではないでしょうか。」

「あるいは、私もあちこちに顔を出してしまったので、顔を見知った人達からすれば、回収を依頼しやすかったのかも知れません。一人の方がとても沢山の牛乳パックを持ってこられるというケースもよくありました。おそら

「く自宅で消費した分の他にも個人で集めてから持ってきていたのかもしれない。」

「あと、近所のケーキ屋さんとか、業務店からの持ち込みもあったので、それが積み重なっていったんだと思います。」

「それだけ多くの人から信頼を得る接客をされてきたのだと思います。接客において特に意識していたことはありませんか。」

「あたりまえのことかもしれませんが、せんが、牛乳パックの回収を依頼されたときに、嫌な顔をしないという事です。」

「ごみ収集車の周回日の関係で、お店での牛乳パックの回収日は木曜日と決めているのですが、中には違う曜日に持って来る方もいらつしやいます。そういう時も笑顔で受け取って対応しなければならぬと、お店の従業員にはよくよく伝えていました。忙しいときであっても、休憩中であっても、必ず気持ちよく受け取ってほしい、と。」

「これからの世代へ伝えたいことがあればぜひ。」

「何事も、めんどくさがっちゃいけません。」

「客商売はもちろん、いろいろなお仕事において、お客様には気持ちよく帰ってもらわなきゃいけないのです。」

「例えば、その日は対応してないで決めている事であっても、対応できる状況が作れそうであれば、面倒に考えずお引き受けする。そういう気持ち大切です。」

「くにたちエコポイント」事業

市内の一部の店舗にて、買い物物袋を持参した方や、牛乳パックのリサイクルに協力した方に対して、加盟店において現金として使用できるポイントエコポイントを付与する事業。平成9年に国立市商工会が企画してから現在まで20年近く実施され続けている。

このうち牛乳パックのリサイクルについては、市内にある指定の牛乳パック回収担当店舗へ空の牛乳パックを持っていくことでポイントが付与される仕組みとなっている。